

自分の感情をコントロールする、相手に自分の気持ちを伝え、円滑なコミュニケーションを取るための具体的手法や知恵を身に付ける米国生まれのプログラム「セカンドステップ」が保育園や小学校などで広がっている。キレずにトラブルを解決できる力として注目されている。(野村由美子)

キレずにトラブル解決

給食も終わった十月の午後、浜松市内の瑞雲保育園の一室で、十六人の年長さん(以下、年長)が、いすを平円にならべて座り、中根芳浩先生(以下、中根先生)に注目した。二十回目のセカンドステップの授業では、砂場で遊ぶ男の子たちから少し離れて立つルイスちゃんの写真から、彼ができることを考えた。

子どもの対人関係力養成

セカンドステップ

「話し掛ける」「一緒に遊ぼうと言つ」「スコップを持ってくる」などの園児の意見に、中根先生が「いばって『入れろ!』という」などを加えて「ほぼどが挙げられた。次にそれを実行したらどうなるかを考える。必ず使う物差し、「その行動を取るのには安全?」自分と相手の気持ちは?

▽フェア?▽解決できそう?」に合わせて考える。「一緒に遊ぼうと言つ」のは安全? 内容はフェア?と一つ一つ園児たちと確認する。「じゃあいばって入れろ!は、安全?」「だめ!」「気持ちは?」「バ

ツ」解決できなさそう。大きな声が上がった。同園は二〇〇一年からセカンドステップを保育に取り入れた。年長児クラスが年間二十八回の「授業」を

た。日本では〇一年に設立されたNPO法人「日本」どものための委員会(東京)が研修、指導員養成など実施。現在千七百五十人が研修を受け、小学校、保育園、児童相談所など全国二百カ所プログラムが実

施されている。特徴は、一方的に「人を傷つけてはいけない」「暴力をふるってはいけない」と抑え付けるのではなく「怒ってもいいんだよ」と

気持ち考え意見交換

感情の動きを否定しない。その上で「五、四、三、二、一と数えて怒りを落ち着けよう」「わざとじゃないんだ、ごめんね」と一言付け加えるといいねなど具体的な手法を、子どもと一緒に考えていく。

授業を受けるうちに同園の園児たちは、けんかが起きてても「先生は向こうで見て」と自分たちで気持ちなどを伝え合うように。周囲の子も冷静に見守り、一方的にやり込めたり、やり込められたりするものがなくなった。



感情を伝える力も

先生がどんな意見も評価せず、受け止めることで、子どもたちは積極的に意見を言うようになってきたという。浜松市の瑞雲保育園でようになったという。アイデアを出し合うことから、一つの解決策が駄目でも次を考えようと柔軟に。「トラブルがないのいいとされていたが、今ではトラブルがあっても解決していく力を付けなければならない。保育士たちも受け止められる」と梶浦園長は評価する。

東京都品川区教委は、〇六年度から、小学一、二年生にセカンドステップを実施している。同NPOと学校の授業時間に合わせたプログラムを練り、現在三十校で実施。来年度には区内全三十八校で実施する予定。保護者への理解を進めたり、幼稚園保育園と連携も目指すという。

同NPOの渡辺俊一理事長は「これですべてが解決、ではないが、幼いうちから良い人間関係をつくる言葉や知恵を身に付けければ、大人になっても乱暴でない問題解決ができていくのでは」と話している。